

<医学概論領域について>

指導教員：石丸 知宏

医学概論は、生命倫理学と医療人類学を主な学問領域とする社会医学であり、人間の文化的価値観や歴史の変遷の観点から医療システムのあり方を科学的に分析する学問である。

「特論」では、産業衛生学の基盤となる医学概論（生命倫理学・医療人類学）の基本を学び、発展応用する能力の習得を目指すのが目的である。「演習」では、産業衛生における医学概論の幅広い基礎知識を実践的に習得するとともに、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。「実習」では、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。研究結果に至るまでの討論などを通して、科学的及び倫理的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。「論文指導」では、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。この学問領域の特色は、人間の歴史的な文化的背景（慣習・価値観・倫理など）から医学・医療のあり方を科学的に探求することにある。

この科目を通して、産業保健システムの国際比較、労働者の健康意識・思想と健診結果との関係、精神障害者の職場復帰時の倫理的諸問題といった課題を解決することができる能力を付与する。

<産業衛生学専攻博士前期課程への入学を希望される方へ>

1. 研究テーマについて

医学概論領域では、以下の研究テーマを想定しています。

国際研究

- アジアの農村における高齢者の生きがいと健康
- 社会的に脆弱な立場にある労働者（インフォーマル雇用）の健康課題
- 産業保健専門職の資格制度、教育体系、倫理綱領の国際比較

国内研究

- 就業差別解消のための実装介入（HIV感染者、外国人労働者）
- 外国人労働者の医療サービスへのアクセス支援
- 医師の働き方改革の影響評価

2. 受け入れ要件の目安

一般入学者および週に1日程度の対面指導が可能な社会人入学を希望される場合は、受け入れ要件はありません。

リモートでの指導を前提とした社会人入学を希望される場合、2年間の修学期間で必要な成果を確実に上げるために、以下の要件を受け入れの目安としています。

- 想定される研究を行うことができるフィールドを確保できている。
- 想定される分析手法を理解している。
- 何らかの学术论文を執筆した経験がある。

問い合わせ先：医学概論 代表メールアドレス
j-gairon@mbox.med.uoeh-u.ac.jp